

平成20年 2月

穆 浩生 学位論文審査要旨

主 査 岸 本 拓 治
副主査 福 本 宗 嗣
同 黒 沢 洋 一

主論文

Health-related quality of life and recognition of desertification among inhabitants of the Loess Plateau region of China: findings for city and village communities

(中国黄土高原における地域住民の健康関連QOLと砂漠化認識：市部と農村部の調査結果)

(著者：穆浩生、黒沢洋一、小谷和彦、劉国彬、劉普林、恒川篤史、西野俊一郎、伊藤健彦)

平成20年 Journal of Environmental Health 70巻 38頁～43頁

学 位 論 文 要 旨

Health-related quality of life and recognition of desertification among inhabitants of the Loess Plateau region of China: findings for city and village communities (中国黄土高原における地域住民の健康関連QOLと砂漠化認識：市部と農村部の調査結果)

乾燥地域では、砂漠化や干ばつなどで、栄養不良、飢饉、さらに、感染症、呼吸器疾患、熱中症などの地域住民への健康影響がみられる。また、砂漠化問題に対し、地域住民の認識レベルの地域差も考えられる。中国の黄土高原は乾燥地であり、砂漠化問題が深刻となっている。しかしながら、同地域では健康状態、あるいは健康関連QOLや砂漠化認識についての研究は、ほとんど行われていない。そこで、地域住民の健康関連QOLと砂漠化認識を調べ、教育、経済などの社会因子との関連性を検討した。

方 法

黄土高原にある延安市と周辺部において、経済および地域状況を考慮して、市部は3ヶ所の集合住宅地、農村部は4地区を選定し、すべての世帯の世帯主を調査対象とした。市部は留め置きアンケート、農村部は調査員によるインタビュー調査を実施した。

健康関連QOLの測定には、健康状態を測る健康関連評価スケール36-Item Short-Form Health Survey (SF-36v2) 質問紙と主観的生活満足度調査票（経済状態、住居、食物、燃料、人間関係が含まれる）を使用した。SF-36は8つの下位尺度からなり、各尺度は、単独の尺度としても使用可能とされ、得点は0-100で、得点が高いほどよい健康状態であることを表すものである。本研究では、全体的健康感、活力、心の健康の3つの尺度を用いた。関連要因として性別、年齢、一人当たり年間平均収入と教育程度を調査した。また、砂漠化問題に対する認識レベルを検討するために、砂漠化認識を調査した。

市部、農村部別による健康関連QOLと砂漠化認識の解析は、分散分析と χ^2 検定を用いて分析した。健康関連QOLおよび砂漠化認識と各種因子の関連については、健康関連QOLおよび砂漠化認識を目的変数、性別、年齢、収入、教育程度などの因子を説明変数として、偏相関係数を求めた。

結 果

市部から195人、農村部から248人の計443人を分析対象とした。有効回収率は市部86%、

農村部100%であった。平均年齢はそれぞれ44.8±13.8歳、44.2±11.7歳で、男性が約2/3を占めていた。農村部の平均収入は2760±1973円で、市部は7735±4088元であり、農村部の約3倍であった。

市部と農村部における健康関連QOLと砂漠化認識の解析では、市部農村部ともに全体的健康、活力、心の健康の3つの尺度が加齢に伴って低下していた。全体的健康は市部と農村部の間に差がみられなかったが、活力と心の健康においては農村部女性のほうが、有意に低下していた。主観的生活満足度については市部より農村部が有意に満足していた。砂漠化認識では、砂漠化が深刻だと思える者は農村部より市部のほうが有意に多かった。

重回帰分析では、農村部において、平均収入と健康関連QOLに有意な関連がみられ、全体的健康、活力、心の健康、主観的生活満足度の得点は平均収入の増加に伴って高くなる傾向が示された。市部では、活力と主観的生活満足度が平均収入と有意に関連していた。各調査地別に、性別、年齢補正後求めた健康関連QOL平均得点においても、農村部では平均収入の高い地区ほど、QOL得点の高くなる傾向がみられた。

考 察

本研究ではSF-36による健康関連QOLを評価した結果、農村女性の活力と心の健康の低下が明らかとなった。先行研究では、農村女性の家庭や社会での地位の低いことが報告されており、このことが健康関連QOLにも大きな影響を与えると考えられた。農村地域の健康関連QOLには、経済収入の要因が強く影響していることが認められた。他の地域においても同様な報告があり、同地域においても経済収入の増加によりQOL向上の可能性が示唆された。都市住民に比較して、農村住民の砂漠化認識が低いことが明らかとなり、農村住民に対する環境教育対策の必要性が示唆された。本研究の限界として、市部と農村部の調査方法が同一ではないため、応答バイアスを生じている可能性があることや、調査地域は黄土高原の一部であるので、黄土高原全地域の住民に一般化することが困難であることが挙げられる。

結 論

黄土高原地域における健康関連QOLの調査結果から、農村部の女性の家庭や社会での地位の改善や、経済収入の増加が、この地域の健康関連QOLの向上につながる可能性があることが示唆された。